

世代をこえて心と心をつなごう

■【推進員認定期】第7期～第10期 【所属】グループしゃぼん玉（推進員有志）
■【活動エリア】川越市

学習対象者	小学生（4年生～） 中学生 高校生 住民 その他（ ）
内 容	障がい理解（車いす体験、アイマスク体験、当事者と交流、施設体験、その他（ ）） 高齢者理解（高齢者疑似体験、当事者と交流、施設体験、その他（ ）） その他の理解（ ）
所用時間	1回あたりの時数：授業45分×2コマ＝90分
ねらい	「老いる」ということは、どういうことかを理解し、高齢者を通じて人と人とのつながりの大切さを学んでもらう

はじめに

今まで川越市では、福祉教育授業といったら障害者の疑似体験（アイマスク・車椅子）・手話・点字などが主であった。2時間いただいても体験で終わってしまい「ともに生きる」ことを伝える心の部分がどうしてもおざなりになってしまっていた。

今回、その心の部分を伝えていくことを、「4人に1人はお年寄りになる」といわれている現在、高齢者とのかかわりを通して、人と人とのつながりへと学んでいけたらと考えている。

実践内容

（ ）話

老いるということへの理解

・高齢になっていくにつれての身体の変化

・高齢になっていくにつれての心の変化

} いろいろなグッズを使って、体で表現し、説明する。

（ ）寸劇

お年寄りがいる家庭での日常生活の出来事を寸劇で行う。

出演者は、おばあさん・お父さん・お母さん・子供(ゼッケンに大きく表す)

出演するおばあちゃんは、食事をしたことを忘れたり、自分の財布が無くなったと言って騒いだり、道がわからなくなったり、何回も同じことを言ったりする。

他の家族の対応があまり良くない例を最初に演じてみて、「君ならどうする」と生徒たちに考えさせる。そのよい例の一つをまた再現してみる。

「君ならどうするの？」の寸劇

生徒たち自身が出演

“道がわからなくなった！” “物が無くなった！” “おなかがすいた！” など、先生方におじいさん・おばあさん役(ゼッケン必要)になってもらい、そのとき君はどうする？を演じてもらう

() 総括(まとめ)

生徒が小さかった頃、祖父母がいろいろと世話をしてくれたことを思い出させ...

今度は君たちの出番であること

・お年寄りを優しい温かい目で見守り、ちょっとした手助けができるようになること。

・高齢者が安心して暮らせる街に君たちが歩いて欲しい、と締めくくる。

ここがポイント！

() 話の中では...

新聞紙を使って脳の説明をする。

新聞紙に穴を開けて脳の細胞がだんだん壊れていく様子を説明。(だんだんひどくなると認知症)

記憶のつぼと海馬についても記憶がだんだん薄れていく状態をネットの袋や手袋のグッズを使って説明する。

また、思うように動けなくなって衰えていくお年より自身が不安な気持ちで寂しく悲しくなっていく心の変化も生徒に伝える。そして、君たちは何が出来るのかを考えさせる。

認知症のこと
にもふれる

() 寸劇では...

推進委員の有志で作ったグループしゃぼん玉が出演。かつらや半ズボンをはいたり、衣装を着けたりして生徒を引き付け、校長先生、担任、そして最後には生徒にも加わって出演してもらい、お互いに楽しみながら、お年寄りに対する対応や考える機会を作る。対応の仕方も一人ひとりみんな違うんだということも気づいてもらう。

成 果

生徒たちの感想文に“街のなかで寂しそうな、困っているお年寄りの方を見つけたら、優しく接してあげたい!!!” “祖母のことをきちんと受け止めて頼られる強い人になりたいです” “心、豊かな人になれるよう、がんばります！” 等等。 少しずつではあるが理解してくれているように思う。

課 題

今回は、高齢者(認知症の方も含め)について学習したが、障害者の方についても生徒さんたちに出会いをたくさん作る企画をしたいと考えている。グループしゃぼん玉にも視覚障がいの方、車椅子生活者の方も是非入りたいとおっしゃっているので、寸劇以外にもレクリエーションやスポーツ等を通しての交流学习をし、みんな違うけど、みんな同じなんだということを共に等しく生きていくんだということを気づく企画を作ろうと、1ヶ月に1回しゃぼん玉の方たちが集まって取り組んでいる。

グループしゃぼん玉構成員

7期生	和田
8期生	木村・杉浦・高坂・平野
9期生	田中・西村・塚本・矢沢
10期生	小島

